

第1回長与アクアスロン大会 ～きっかけから開催まで～

長与町トライアスロン協会
山野健二

1. 長与でアクアスロンをやりたいと思ったきっかけ

大会会場となった長与町齊藤郷の埋立地は、普段からジュニア選手のバイクやラン練習に使わせていただいていた場所で、長与町スポーツ交流館を本部に、芝生広場や公衆トイレ、ペーロン大会が行なわれるきれいな海、車がほとんど通らない道路などロケーションとしてはなかなかいいと思っていました。石崎君（国体女子監督）から「ここいいんじゃない」、加納会長から「長与か結の浜で大会やれないかな」などと話をしている中、西海大会がキッズ・ジュニアの部廃止決定の連絡があり、子どもたちの活躍の場を長与でやろうと決心しました。



長与港のスロープ。スイムのスタート・フィニッシュ地点。写真に写っているのは福岡ライフセービングクラブの皆さん。クラブの協力なしにレースは開催できません。

2. 最初に取り組んだこと

1月に長与町体育協会の藤田事務局長に相談し、大会開催のため許可が必要な関係機関を紹介していただきました。また体育協会も共催という形で応援していただくことになりました。次に長与町トライアスロン協会の内海会長に相談しました。会長は「まずは練習会からスタートしてみてもどうか」という見解でしたが、大会の形で準備させていただくお願いをしました。



開会式で挨拶をする内海会長

3. 次に取っかかったこと

時津署に出向き、大会開催について相談しました。交通量が少ない場所で問題ないとのこと。後日安全対策などの説明をすること、道路使用許可の申請は7月以降などの指示を受けました。次に会場である埋立地と、海で泳ぐことの使用許可申請を行ないました。県港湾事務所への申請ですが、窓口は長与町土木管理課です。大会本部の長与町海洋交流センターと

フィニッシュの多目的広場（芝生広場）の借用申請は生涯学習課、また大村湾漁協（海面使用同意書の提出）、ペーロン保存会との調整なども必要でした。

同時進行で、選手募集に必要なチラシ・ポスター作成、ホームページの立ち上げをグルペットデザインワークスの安部さんに相談しました。安部さんはトライアスロン経験者で競技のことも熟知しており、こちらの思いもよく理解してくれ、すぐに試案を準備してくれました。

4. 長崎県トライアスロン協会総会で承認をいただく

3月の長与町トライアスロン協会主催の練習会終了後、長与の皆さんに大会の説明を行い、協会主催のお願いをしました。そして4月の県トライアスロン協会総会で大会開催の説明を行い、長崎県アクアスロン選手権の承認をいただくことができました。その場でたくさんの方々から、審判で協力して下さる申し出をいただきました。さらに、久保長さんからは南島原市のコースロープとマット使用OKということで、とても助かりました。

5. 本格的な準備スタート

行政からの支援は長与町制50周年自主企画事業の5万円のみ、他は選手のエントリー費と企業・事業所からの協賛からまかなうことになるため、協賛事業所探しに奔走しました。4月中旬大会ホームページ開設、そして5月1日から選手募集を開始しました。作成したチラシは2000枚、長崎の各スイミングスクールや市民プール、コミュニティプールなど訪問し、ポスター掲示とチラシの配付をお願いしました。加納会長、松尾純子さんの尽力で天草大会、上五島大会、虹ノ松原大会出場選手にも配付しました。また、テント、音響、机、イスその他各種備品の借用手配をすすめました。

6. エントリー目標の200名を超える

5月1日より開始したエントリー、最初は順調に申込がありましたが、5月中旬から伸び悩みちょっと心配になりました。ホームページの管理を請け負ってくださった南部さんから、毎日エントリーリストが送られてきますが、日々一喜一憂でした。南島原の谷川さんから「最後に伸びるよ」との言葉を信じそして最後の週、一気に伸びて最終的に231名のエントリーとなりました。200名超えてほしいという願いを大き



フィニッシュの多目的広場（芝生広場）



南島原市から借用したブルーのマット。スロープに付着したカキ殻などから足を守る。砂袋で固定しました。



長与町のテント、机、イスなどほとんど近くの陸上競技場倉庫から運ぶことができた。

く上回り、嬉しいとともにプレッシャーも感じ始めました。ジュニア選手の活躍の場と思って立ち上げたレースですが、一般選手の出場が130人と、予想以上に多かったです。初めてアスロンにチャレンジする選手も多く、これは嬉しいことでした。また、小学校3・4年生の子どもとその親と一緒にエントリーし、親子で楽しむという家族が目立ちました。

8. エントリー締切後の準備

参加選手が確定し、大会の規模が明らかになり、大会会場の具体的な設営計画作成に取りかかりました。合わせてスイム・ランの安全対策、スイムスタート・フィニッシュおよびトランジションエリアの設営計画、審判・係員の配置計画もすすめました。次第に私1人の能力では追いつかなくなりましたが、スイムコースとトランジションエリアは内海会長（パパ）、審判・係員の配置は内海ママにお任せし、おかげで準備がすすみました。



ミカンコンテナは内海会長の手配によるもの。200名を超える数だったがスペースには余裕があった。。

9. 前日準備

大会前日、審判の皆さん、長崎大学トライアスロン部、協力して下さる方々が、朝9時集合で集まってくださいました。内海ママを中心にナンバーカード、参加賞など選手配布物の仕分け作業。テント張りやトラエリア設営など会場設営は内海パパを中心にすすめていただきました。ミカンコンテナ200個設置、トラエリアを囲むハードルの設置スイムコースのマットと砂袋など、思った以上にハードワークで大変でした。内海パパ手配のトラックのピストン輸送がとても助かりました。長崎大学トライアスロン部が最後にスイム試泳をやってくれましたが、クラゲが全くないなかったのでよかったです。



スタッフが不足し、審判の皆さんにも表彰お手伝いいただきました。

の仕分け作業。テント張りやトラエリア設営など会場設営は内海パパを中心にすすめていただきました。ミカンコンテナ200個設置、トラエリアを囲むハードルの設置スイムコースのマットと砂袋など、思った以上にハードワークで大変でした。内海パパ手配のトラックのピストン輸送がとても助かりました。長崎大学トライアスロン部が最後にスイム試泳をやってくれましたが、クラゲが全くないだったのでよかったです。

10. 大会当日

多少気がかりだった台風も影響なく、素晴らしいコンディションの朝を迎えました。主要スタッフ6時集合で、当日の打合せを行ない準備開始。7時30分に係員の打合わせを行い、選手も続々と会



炎天下のラン。選手以上にスタッフが消耗しました。来年はしっかりした対策が必要です。

場入りし、8時受付と同時にレースの緊張感が高まってきます。内海ママ技術代表、内海パパ審判長を中心に、県トラ協の主要スタッフが審判としてレースを仕切っていただきました。実行委員長（山野）はジュニアのがんばりを気にしつつ、スイムを見たりランを見たり、最後まで落ち着かないままでした。大きな事故もなく無事大会が終了し、午後は会場の撤収作業を行いました。皆さんとても疲れていたはずですが、最後までがんばっていただきました。長崎大学トライアスロン部は選手としてレースに出場した後も最後まで協力してくれました。



閉会のあいさつを行う加納会長

11. 大会終了後

達成感に浸りつつ、当日やり残した片付け、協賛事業所へのお礼、完走証とリザルトの送付などを行いました。一方で反省点も多くあり、特に審判はじめスタッフの皆様には炎天下の業務で、大きな負担をおかけしたと思っています。

12. 今後に向けて

長崎のジュニアスイマーたちが長与アクアスロンをきっかけに、将来はトライアスロンにチャレンジし、ゆくゆくは長崎を代表するトップ選手に育っていく。その流れをつくる狙いで長与アクアスロンを立ち上げました。その意味では第1回大会は成功することができたと思っています。また予想以上に一般の初心者の参加が多く、長崎のトライアスロン発展に関わることができたとも感じています。

大会が成功したのは、長与トライアスロン協会の皆様はもとより、長崎県トライアスロン協会所属の審判と係員の皆様の協力があったからこそでした。来年の第2回大会も是非ご協力よろしくをお願いします！